

多賀城市の板倉・土蔵・石倉  
調査報告書

平成 28 年 2 月

多賀城市  
多賀城市教育委員会  
東北工業大学建築史研究室



## 序 文

本市は平成 23 年 12 月、国土交通省、文部科学省、農林水産省の 3 省により多賀城市歴史的風致維持向上計画の認定を受け、歴史まちづくり法に基づくまちづくりを進めているところであります。

この歴史まちづくり法は平成 20 年 11 月に施行された法律で、本市では平成 21 年度から策定準備に取りかかりました。その策定過程の中で、「多賀城」という確固たる歴史遺産のみならず、板倉をはじめとする人の暮らしや生活文化に根付いた歴史遺産が、本市固有の歴史的風致を形成していることとあわせて、本市の歴史の多様性を改めて認識するに至りました。

本書は、歴史的風致を形成し、貴重な歴史遺産である板倉、土蔵、石倉 68 棟の調査成果をまとめたものであります。これほど多数の板倉等について調査した例は、全国的にも希であり、特に、板倉については、気密性を求めるため、大工職人による様々な技が確認されるなど大きな成果を得ることができました。このことから、本書が板倉等の保存及び歴史的風致理解の一助となれば幸いに存じます。

最後になりますが、調査から本報告書作成に至るまで、御尽力いただきました東北工業大学建築学科建築史研究室の高橋恒夫先生をはじめ、学生の皆様に深く感謝申し上げます。さらに、震災後間もない時期にも関わらず、倉の被害状況把握調査に御協力いただきました、東京都国分寺市教育委員会、神奈川県小田原市教育委員会、三重県明和町教育委員会、福岡県太宰府市教育委員会の皆様、そして調査に快くご協力いただきました所有者の皆様に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 2 月

多賀城市教育委員会  
教育長 菊地 昭吾



## 例言

- 1 本報告書は、平成 23 ～ 26 年度に実施した板倉・土蔵・石倉にかかる調査成果をまとめたものである。
- 2 調査は、平成 23 年度が東北工業大学建築史研究室にボランティアで実施、平成 24・25 年度は株式会社 i 設計エンジニアリングに委託して実施し、平成 26 年度は東北工業大学建築史研究室で調査全体の取りまとめ作業と補足調査を行った。
- 3 倉の分布図及び倉台帳については、多賀城市教育委員会から提供を受けた。
- 4 倉の年代根拠については、第 3 章考察で板倉、土蔵、石倉の各一覧表に掲示した。
- 5 図及び表は、本報告書のはじめから通し番号を付したが、写真については、第 3 章考察から通し番号を付した。
- 6 本報告書は、多賀城市及び多賀城市教育委員会と協議しながら東北工業大学建築史研究室教授高橋恒夫と同研究室渡邊亮が編集・執筆した。
- 7 調査に関する一切の資料は、多賀城市教育委員会にて保管している。



# 多賀城市の板倉・土蔵・石倉

## 目次

### 序論

#### 第1章 概要

調査日程	2
調査方法	3

#### 第2章 遺構の解説

1 板倉の解説	22
(1) 市川地区S家住宅板倉 (台帳No. 119)	
(2) 新田地区E家住宅板倉 (台帳No. 129)	
(3) 市川地区K家住宅板倉 (台帳No. 098)	
(4) 市川地区K家住宅板倉 (台帳No. 123)	
(5) 山王地区A家住宅板倉 (台帳No. 076)	
(6) 八幡地区I家住宅板倉 (台帳No. 004)	
(7) 八幡地区M家住宅板倉 (台帳No. 033)	
(8) 八幡地区I家住宅板倉 (台帳No. 006)	
(9) 市川地区K家住宅板倉・北棟 (台帳No. 097)	
(10) 南宮地区I家住宅板倉・南棟 (台帳No. 041)	
(11) 市川地区Y家住宅板倉 (台帳No. 121)	
(12) 高橋地区K家住宅板倉 (台帳No. 142)	
(13) 南宮地区I家住宅板倉 (台帳No. 044)	
(14) 高崎地区S家住宅板倉・北棟 (台帳No. 154)	
(15) 南宮地区A家住宅板倉 (台帳No. 038)	
(16) 南宮地区I家住宅板倉 (台帳No. 043)	
(17) 南宮地区G家住宅板倉 (台帳No. 057)	
(18) 南宮地区S家住宅板倉 (台帳No. 061)	
(19) 南宮地区T家住宅板倉 (台帳No. 069)	
(20) 南宮地区T家住宅板倉 (台帳No. 073)	
(21) 山王地区I家住宅板倉 (台帳No. 086)	
(22) 市川地区K家住宅板倉・東棟 (台帳No. 103)	
(23) 市川地区K家住宅板倉・西棟 (台帳No. 102)	
(24) 新田地区E家住宅板倉 (台帳No. 125)	
(25) 市川地区K家住宅板倉 (台帳No. 095)	
(26) 南宮地区S家住宅板倉・南棟 (台帳No. 067)	
(27) 南宮地区S家住宅板倉・北棟 (台帳No. 068)	
(28) 南宮地区I家住宅板倉・北棟 (台帳No. 040)	
(29) 市川地区S家住宅板倉 (台帳No. 118)	

- (30) 市川地区S家住宅板倉・南棟 (台帳No. 109)
  - (31) 市川地区S家住宅板倉・北棟 (台帳No. 110)
  - (32) 南宮地区O家住宅板倉 (台帳No. 053)
  - (33) 高崎地区T家住宅板倉 (台帳No. 161)
  - (34) 八幡地区T家住宅板倉 (台帳No. 028)
  - (35) 南宮地区O家住宅板倉 (台帳No. 051)
  - (36) 山王地区K家住宅板倉 (台帳No. 088)
  - (37) 南宮地区K家住宅板倉 (台帳No. 056)
  - (38) 南宮地区S家住宅板倉 (台帳No. 065)
  - (39) 市川地区K家住宅板倉・南棟 (台帳No. 096)
  - (40) 高崎地区S家住宅板倉・南棟 (台帳No. 153)
  - (41) 八幡地区W家住宅板倉 (台帳No. 034)
  - (42) 八幡地区T家住宅板倉 (台帳No. 027)
  - (43) 八幡地区G家住宅板倉 (恩賜郷倉) (台帳No. 022)
  - (44) 八幡地区M家住宅板倉 (台帳No. 032)
  - (45) 八幡地区T家住宅板倉 (台帳No. 029)
  - (46) 市川地区S家住宅板倉 (台帳No. 115)
  - (47) 市川地区S家住宅板倉 (台帳No. 116)
  - (48) 南宮地区T家住宅板倉 (台帳No. 072)
  - (49) 市川地区S家住宅板倉 (台帳No. 106)
  - (50) 南宮地区S家住宅板倉 (台帳No. 064)
  - (51) 市川地区S家住宅板倉 (台帳No. 112)
  - (52) 南宮地区T家住宅板倉 (台帳No. 071)
- 2 土蔵の解説 . . . . . 126
- (1) 南宮地区G家住宅土蔵 (2) (台帳No. 060)
  - (2) 八幡地区B家住宅土蔵 (台帳No. 030)
  - (3) 市川地区Y家住宅土蔵 (台帳No. 122)
  - (4) 南宮地区G家住宅土蔵 (1) (台帳No. 059)
  - (5) 南宮地区A家住宅土蔵 (台帳No. 037)
  - (6) 市川地区K家住宅土蔵 (1) (東倉) (台帳No. 092)
  - (7) 市川地区K家住宅土蔵 (2) (西倉) (台帳No. 093)
  - (8) 市川地区K家住宅土蔵 (台帳No. 094)
  - (9) 八幡地区I家住宅土蔵 (台帳No. 005)
  - (10) 南宮地区O家住宅土蔵 (台帳No. 054)
  - (11) 新田地区E家住宅土蔵 (台帳No. 127)
- 3 石倉の解説 . . . . . 148
- (1) 市川地区K家住宅石倉 (台帳No. 099)
  - (2) 市川地区S家住宅石倉 (台帳No. 108)
  - (3) 八幡地区K家住宅石倉 (台帳No. 018)
  - (4) 八幡地区S家住宅石倉 (台帳No. 026)

(5) 浮島地区H家住宅石倉 (台帳No.173)

第3章 考察

1 板倉の特徴	160
(1) 配置	
(2) 柱間隔と類型	
(3) 壁組	
(4) 屋根と小屋組み	
(5) 庇と装飾	
(6) 大工との関わり	
(7) 郷倉との比較と基本形	
2 土蔵の特徴	197
(1) 規模	
(2) 壁の厚さ	
(3) 屋根と床	
(4) 庇と戸の技法	
(5) 壁塗りの技法	
3 石倉の特徴	209
(1) 規模	
(2) 壁(石組み)	
(3) 高さ・窓	
(4) 腰壁	
(5) 小屋組	
(6) 被害	

結論・参考文献	220
---------	-----

謝 辞

## 序 論

宮城県多賀城市において、東北地方太平洋沖地震で被害を受けた板倉・土蔵・石倉の大規模な調査を行った。維持管理が困難な事から解体を余儀なくされている対象も多々あり、一方で、その文化的な価値から移築を検討している対象もあった。

多賀城市には神亀元年（724年）から10世紀頃まで国府が所在していたこともあり、市内には縄文時代から近世に至る41カ所の遺跡が存在している。これらは、江戸時代以来続く保護活動により特別史跡や歌枕などの歴史的環境が良好な状態で現在に伝えられており、平成23年12月6日に農林水産大臣、文部科学大臣及び国土交通大臣は、多賀城市から認定申請があった「歴史的風致維持向上計画の認定」を受理した。我々はこの計画の重点区域における施策や事業の一環である、板倉等調査・保存・活用事業に関わる調査の依頼を多賀城市から受けた。

4年を通してのべ68棟の調査を行い、実測図を作成した。我が国では、局地においてこれだけ多くの「倉（蔵）」に重点をおいて研究を行った記録は皆無と言っている。本研究ではこの好条件の調査対象を活かし、多賀城市における板倉・土蔵・石倉の変遷を考察、歴史的な位置づけや今後の維持管理に結び付ける事を主とする。

# 第 1 章 調査概要

1.調査日程、 2.調査方法

# 1 調査日程

調査対象は計 68 棟にのぼり、うち板倉 52 棟、土蔵 11 棟、石倉 5 棟である。それぞれの遺構と現地調査日程は、次の表の通りである。

表 1 調査年別の遺構一覧

	2011年	2012年	2013年	2014年	計(棟)
板倉	市川地区 Y 家住宅板倉 (台帳№121)	八幡地区 1 家住宅板倉 (台帳№094)	八幡地区下家住宅板倉 (台帳№027)	葛崎地区 S 家板倉 (台帳№132)	52
	市川地区 K 家住宅板倉 (台帳№098)	南宮地区 1 家住宅板倉 (台帳№042)	八幡地区 W 家住宅板倉 (台帳№034)	葛崎地区 S 家板倉 (台帳№134)	
	市川地区 S 家住宅板倉 (台帳№101)	南宮地区 O 家住宅板倉 (台帳№025)	八幡地区 T 家住宅板倉 (台帳№029)		
	新田地区 S 家住宅板倉 (台帳№119)	南宮地区 G 家住宅板倉 (台帳№027)	八幡地区 M 家住宅板倉 (台帳№032)		
	八幡地区 1 家住宅板倉 (台帳№096)	南宮地区 S 家住宅板倉 (台帳№061)	南宮地区 S 家住宅板倉 (台帳№067)		
	八幡地区 M 家住宅板倉 (台帳№032)	南宮地区 S 家住宅板倉 (台帳№064)	南宮地区 S 家住宅板倉 (台帳№068)		
	八幡地区 G 家住宅板倉 (台帳№022)	南宮地区 T 家住宅板倉 (台帳№069)	南宮地区 T 家住宅板倉 (台帳№071)		
	新田地区 T 家住宅板倉 (台帳№120)	南宮地区 T 家住宅板倉 (台帳№072)	南宮地区下家住宅板倉 (台帳№072)		
	新田地区 T 家住宅板倉 (台帳№122)	市川地区 K 家板倉 (台帳№095)	南宮地区 1 家住宅板倉 (台帳№040)		
	山王地区 K 家住宅板倉 (台帳№088)	市川地区 K 家板倉 (台帳№102)	南宮地区 1 家住宅板倉 (台帳№041)		
	山王地区 G 家住宅板倉 (台帳№025)	市川地区 K 家板倉 (台帳№103)	南宮地区 O 家住宅板倉 (台帳№065)		
	南宮地区 K 家住宅板倉 (台帳№056)	市川地区 S 家板倉 (台帳№115)	南宮地区 S 家住宅板倉 (台帳№063)		
	南宮地区 A 家住宅板倉 (台帳№038)	市川地区 K 家板倉 (台帳№118)	市川地区 K 家板倉 (台帳№123)		
	葛崎地区 K 家住宅板倉 (台帳№142)	山王地区 1 家住宅板倉 (台帳№086)	市川地区 K 家板倉 (台帳№096)		
		八幡地区 T 家住宅板倉 (台帳№029)	市川地区 K 家板倉 (台帳№097)		
		南宮地区 1 家住宅板倉 (台帳№044)	市川地区 S 家板倉 (台帳№112)		
			市川地区 S 家板倉 (台帳№106)		
			市川地区 S 家板倉 (台帳№109)		
			市川地区 S 家板倉 (台帳№110)		
			葛崎地区下家板倉 (台帳№161)		
土蔵	市川地区 K 家住宅土蔵 (台帳№092)	<b>八幡地区 B 家住宅土蔵 (台帳№030)</b>			11
	南宮地区 A 家住宅土蔵 (台帳№027)	南宮地区 O 家住宅土蔵 (台帳№054)			
	新田地区 T 家住宅土蔵 (台帳№127)	市川地区 K 家住宅土蔵 (台帳№093)			
	南宮地区 G 家住宅土蔵 (台帳№037)	市川地区 K 家住宅土蔵 (台帳№094)			
	南宮地区 G 家住宅土蔵 (台帳№030)	市川地区 Y 家住宅土蔵 (台帳№122)			
	<b>八幡地区 B 家住宅土蔵 (台帳№030)</b>				
石倉	新高地区 1 家住宅石倉 (台帳№172)	市川地区 K 家住宅板倉 (台帳№099)			5
	八幡地区 S 家住宅石倉 (台帳№018)				
	市川地区 S 家住宅石倉 (台帳№108)				
計(棟)	24	22	20	2	68

特に損傷が酷く、解体することが決定している対象については平成23年に、それ以外のは平成24年以降に調査を行った。

調査地域は、八幡、市川、南宮、浮島、高橋、高崎、山王、新田の8地区と広範囲に渡る。

## 2 調査方法

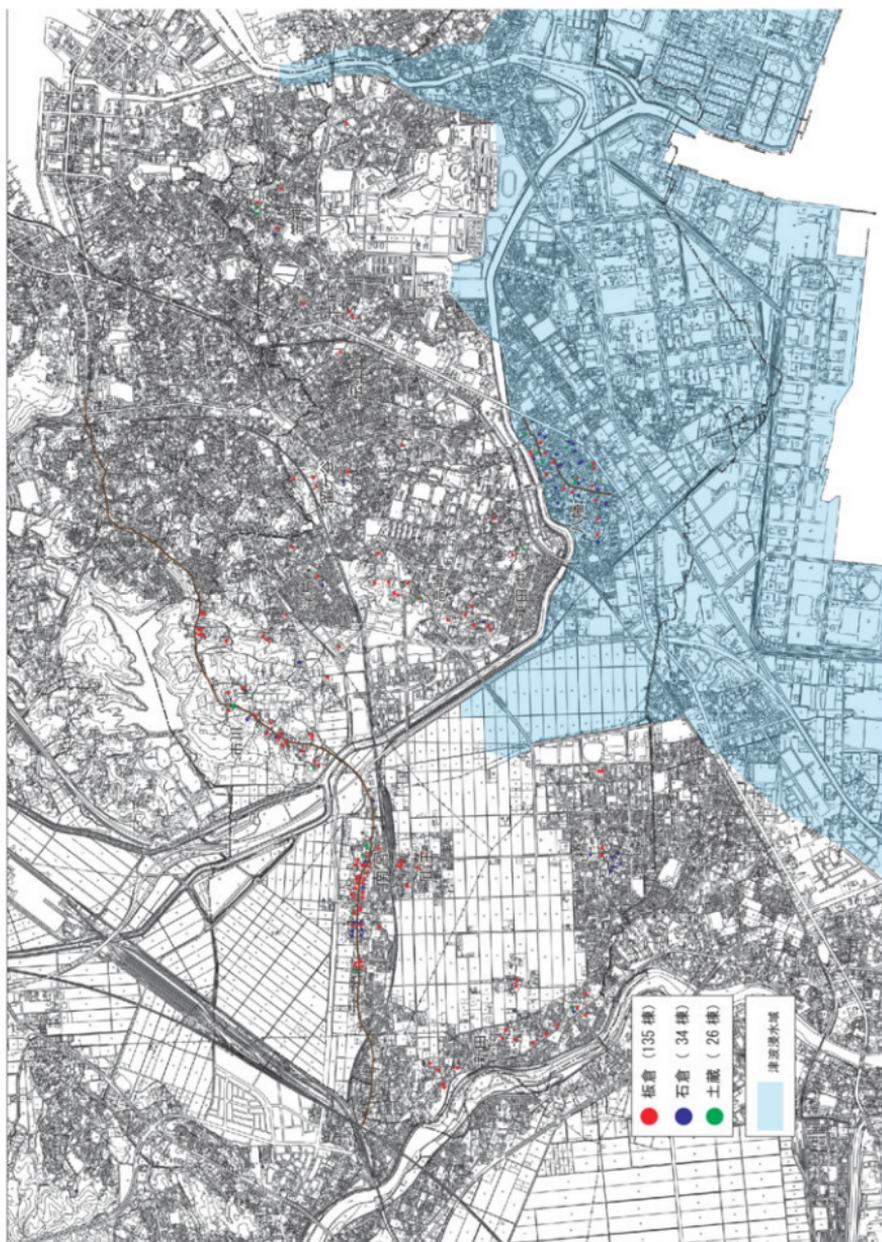
今回、多賀城市役所職員の方たちが、事前に遺構の調査依頼や解体の有無などの調査を行った。その後、我々が多賀城市に行き、それぞれ分担して遺構の配置図・平面図・立面図・断面図を野帳と呼ばれる用紙で作図した。

作図を行うために、各個人の準備物は、画板・用紙・メジャー・計測竿・カメラ・筆記用具である。作図方法は、配置図の場合、主屋と遺構の関係がわかりやすいように、他に建築物である倉庫や井戸などがある場合は記入する。また、方位も忘れずに記入する。今回の調査では、敷地の正確な計測は行ってない為、敷地面積は不明である。平面図の場合、柱の本数の把握、柱の太さや柱間隔、壁厚は適当に記入し、後々わかりやすいようにする。さらに寸法を計測し、倉の規模を明確にした。床板の向きや詳細部分も忘れず記入する。立面図の場合、基本的に平面図と同様の方法で、土台や柱の本数及び梁を適当に記入する。入り口や開口部、詳細部分は後々分かりやすいようにしておく。また、瓦の列と段の枚数は明確に記入しておく。断面図も同様に記入し、天井高、梁の寸法や高さを計測し明確にする。特に断面図と妻側の立面図との整合性に注意を払った。計測方法は、部材の長さや高さは計測竿を用いて計測し、柱の寸法や壁厚及び詳細部分はメジャーを用いて計測を行った。

作図を行う上で、特徴的な箇所は見落とさないよう注意を払い、メモを残し、細かい寸法、詳細図や写真を撮るなどをして補填した。また、遺構の全体の写真や内部の写真も撮り、正確に図面に記せるよう努めた。調査後、野帳や調査票、写真を元にCADによる製図を行った。各棟の図面の図面を縮小したものは次章の解説に付録している。

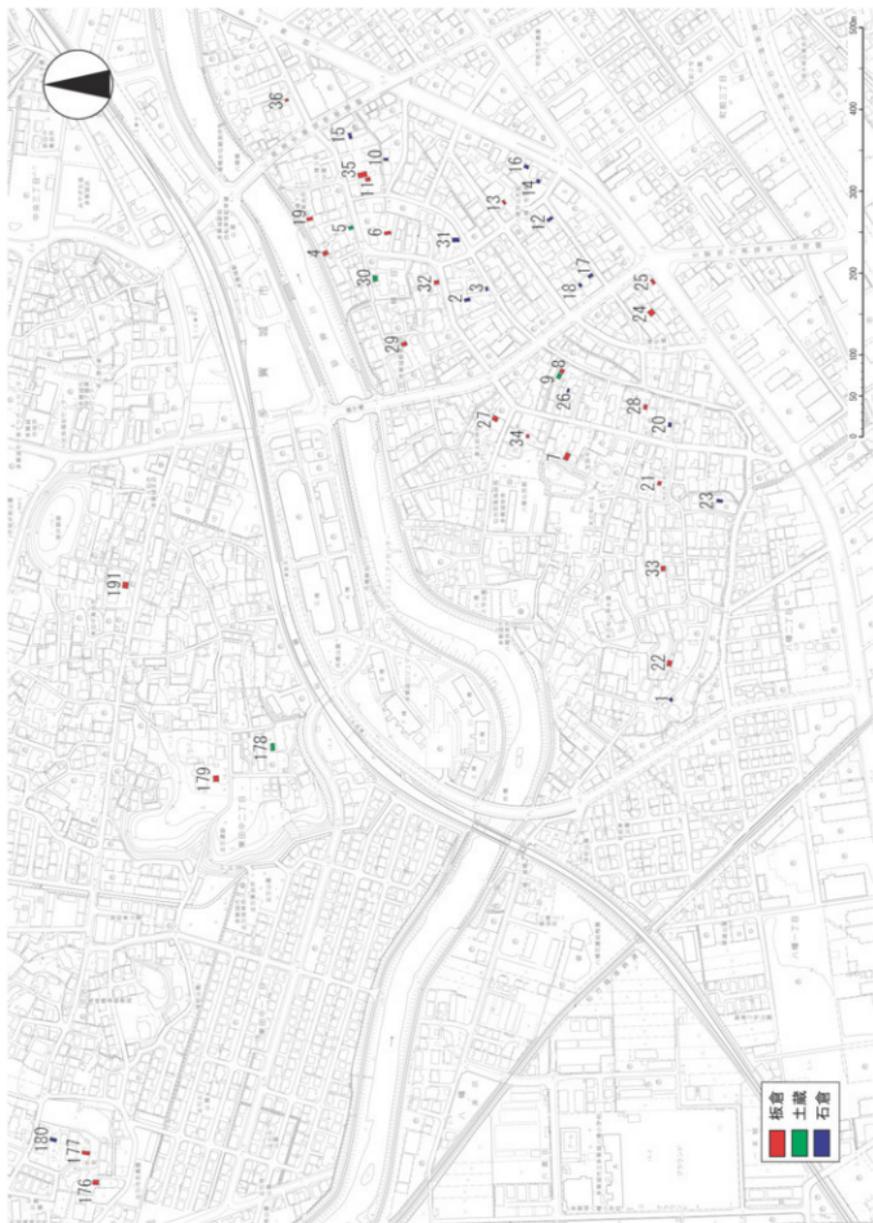


写真 実測作業の様子



第1図 多賀城市内板倉・土蔵・石倉分布図

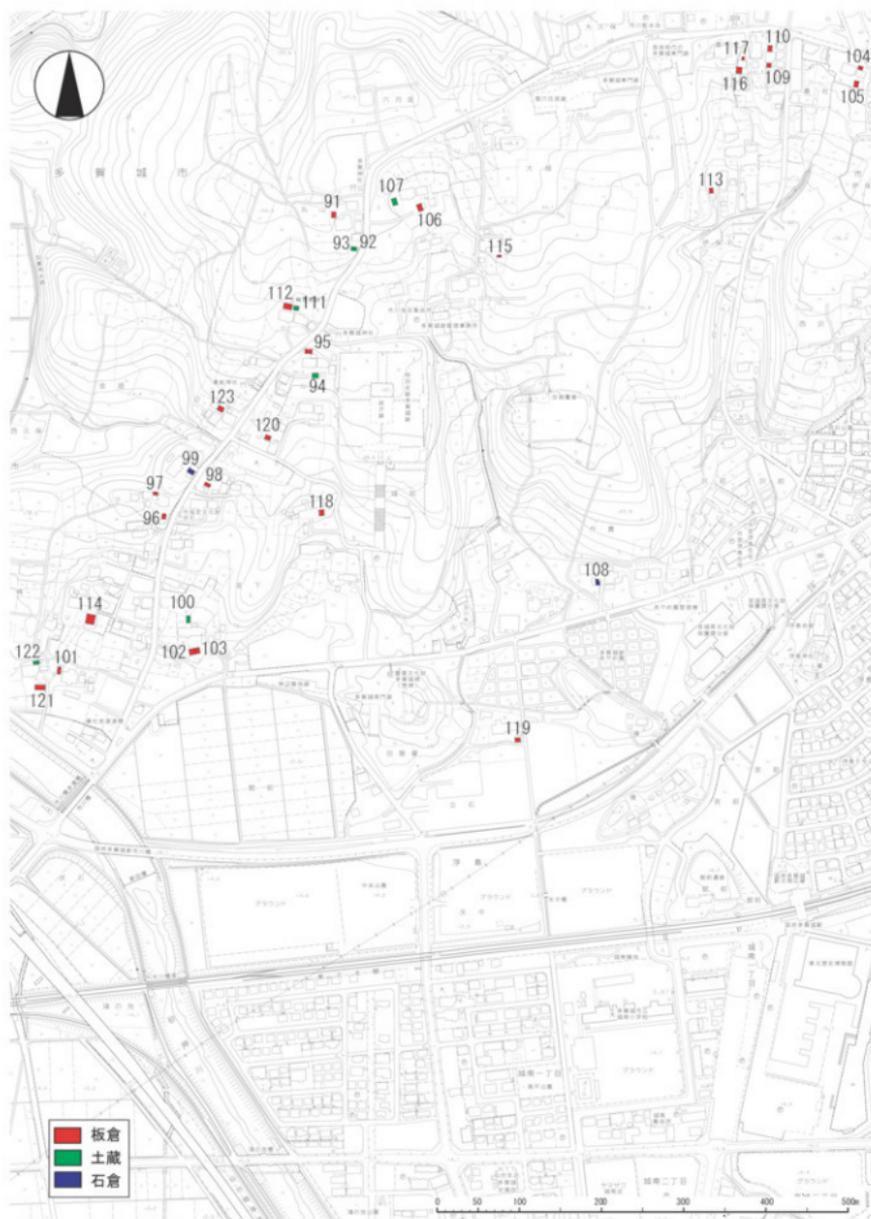




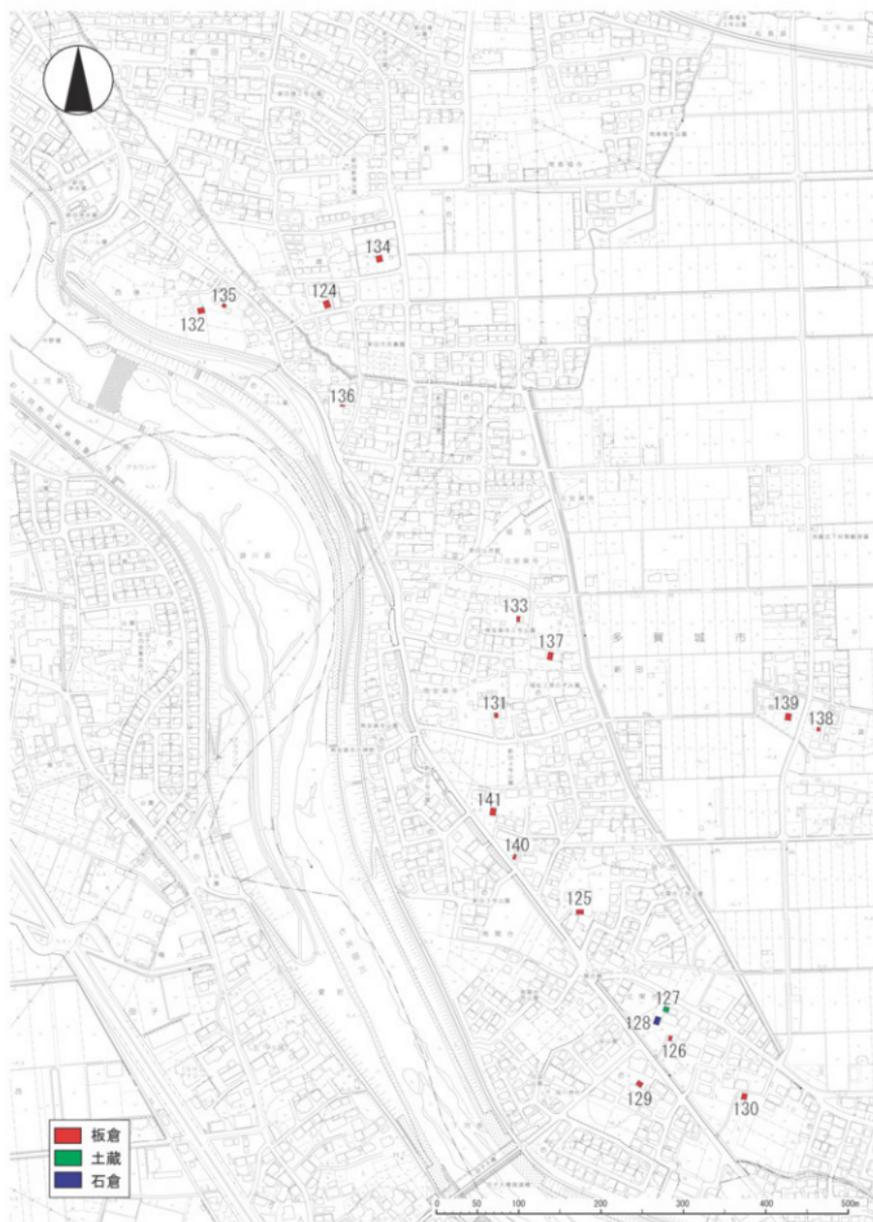
第3図 地区別板倉・土蔵・石倉分布図 (八幡・真田中・中央地区)



第4图 地区别板倉・土蔵・石倉分布图(南宮・山王地区)



第5図 地区別板倉・土蔵・石倉分布図(市川地区)



第6図 地区別板倉・土蔵・石倉分布図（新田地区）



第7図 地区別板倉・土蔵・石倉分布図(高樺地区)